

仕事楽しい人 F i l e . 2 0 : 小林 誠さん (美容師)



◆美容師は、変身業！？

小林さん取材させていただいた後にお送りしたお礼状に、私は、
“小林さんは、イチローや石川遼と同じですね”と記しました。

小林さんは、子どもの頃、床屋に行くのが大好きだったそうです。
床屋の無口なお爺ちゃんが、面がピシッと整ったスポーツ刈りを、
バリッと決めてくれる。

微妙なタッチのシャンプーにうっとりさせられ、

二代目の息子がシャンプーをすると、

「ちょっと爪が立ちすぎだな」

なんて、小林さんは子どもながらに、サービスの質を吟味し、
床屋に行くのを楽しんでいたといいます。

子どもの頃から、

イチローがプロ野球選手を

石川遼がプロゴルファーを

目指していたように、

小林さんも、小さい頃から、

床屋に憧れていました。

(理容師ではなく、美容師になったのは、ご愛嬌ということで)

美容師の仕事の醍醐味は、

変身した自分の姿を見てニッコリする、お客様の笑顔に触れられること。
伸びた髪を切りに来る、日常的な変身もあれば、
高校や大学受験に合格した時
学校の卒業式
成人式
結婚式
などの人生の節目を華やかにする変身や、
彼氏が出来たので
という、ハイな気持ちに合わせるための変身もあります。

小林さんは、言います。

「美容師は、お客様と、ず〜っと関わりを持つ仕事なんです」と。
飲食業だと、注文を伺ったり、灰皿の交換をする際に、時折、お客様と接しますが、
美容師は、来店から、お帰りになるまで、ず〜っとお客様と接しています。
しかも、髪は自然に伸びるので、お客様は定期的に来店され、
時には、人生の節目を迎えられます。
「中学生のころから、うちの美容室に来てくれているお客様が、
先日、子どもを連れてきてくれたんですね」
「美容師って、お客様と深く関われる、最高の仕事なんですよ」
と、小林さんは、鏡でスタイリストがカットをしている姿を確認しながら、
私に、話してくれました。

◆小林さんが大切にしているキーワード

思いやり、人情

人と人の結びつきで、世の中は成り立っているから。

◆小林さんのパワー〇〇

子どものヘアカットのボランティア

スタイリストのカット技術の向上をかねて、月に2回、子どものヘアカット無料ボランティアを続けています。

この活動は、小林さんにとって、大きなエネルギー源になっているそうです。

◆小林さんのコツコツ

スタッフの写真

スタッフの成長の足跡を撮影するのが、大好きです。

◆平堀が感じ取った小林さんの愛情力

スプラッシュ（小林さんの美容室の名前）の特徴として、
私の目を引いたのは、
火曜日に加えて、第1、第2、第3水曜も定休日になっていることでした。
小林さんに「珍しいですね」と尋ねると、
「我々スタイリストは、毎日、多くのお客様にサービスをしています」
「忙しい時には、閉店まで食事も取れない、肉体的にもハードな仕事です」
「ですから、いい仕事をする（してもらう）には、
心身のコンディションを整えるために、きっちり休む必要があると思うんです」
「1日休みを増やせば、それだけ、売上が減ってしまうという考え方もありますが、
売上よりも、お客様に納得していただけるサービスを行うことを
大切にしていきたいんです」
小林さんは、独立する前には、
1日15人から20人のお客様を担当し、ハードに働くのが、
カッコイイと考えていました。
忙しいのは、お客様から人気がある証拠。
まさに、スター気取りだったそうです。
独立開業後も、同じような心持ちで仕事を続け、
何か問題が発生すると、スタッフのせいにしていました。
小林さんは、この時の自分を“傲慢”と称します。
小林さんと話をしていて、“傲慢”な姿は想像もつかないのですが、
会話の途中で、鏡を通じて、チラッ、チラッと、お店の状態を確認している
目線に気がつきました。
小林さんの目からは、「何か問題があったら、サポートするよ」という
スタッフへの温かい気配りが、伝わってきますが、
小林さんの話から想像すると、“傲慢”な時代は、
「仕事ちゃんとやってるんだろうな」と、
監視する目線だったのかもしれませんが。
今や、小林さんは、自分がスターとして君臨するより、
スタイリストのスターを養成する道を選び、仕事に従事しているのでしょう。
このことを私が確信できたのは、小林さんに次のお願いをした時でした。
「今回のコラム用に、お客様をカットしているスナップ写真を送って頂けませんか」
すると、小林さんは、ニコニコしながら、
「自分の写真って、あまり撮ってもらったことないんですよね」
「スタッフの写真なら、しょっちゅう撮っているんですけど」
自分の姿が写っている写真を見るのは、楽しいものですが、

それよりも、スタッフの写真を撮り、見るのを楽しみにしている小林さん。
スタッフに、この上ない愛情を抱いている証です。
子どもを授かった夫婦は、自分たちをそっちのけで、子どもの写真を撮りますからね。
この愛情がベースとなり、定休日も設けたのでしょう。

お客様への愛情にあふれたサービスは、誰もが目指しますが、
スタッフ（同志）に心底愛情を注ぐには、我欲を捨てなければ成し得ません。
小林さんは、“傲慢”を克服し、利他の境地に達したのでしょう。

◆小林さんのプロフィール

職業：美容師

所属：美容室スプラッシュ (<http://www.hairsplash.net/>)

◆美容師とは？

(13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている村上龍氏の解説を抜粋しました)

客の希望に応じて、自然で美しい、また流行にあった髪型をつくりだす。ヘアカット、パーマ、スタイリング、カラーリングのほかに、メイクや着付け、ネイルケア、全身美容なども手がける。美容師は国家資格。美容師専門学校（2年間、通信制の場合は3年間）卒業後、理容師美容師試験研修センターが行う国家試験を受験し、合格すると免許証がもらえる。専門学校では基礎的な技術と知識のほか、日本髪のかぶり方や着物の着付けなどもマスターする。免許取得後は、ヘアサロンや美容室に就職するほか、映画会社や結婚式場、テレビ局などでヘアメイクを担当することもある。経験を積み、指名客をたくさん獲得して、フリーの美容師として活躍する人も。華やかそうだが、修業時代は何カ月もシャンプー担当だったり、閉店後に練習をしたりと、かなり大変。本当にこの仕事が好きでないとまず続かないという。理容師から美容師に転職する人はいるが、その逆はほとんどいないそうだ。また特殊な髪型の専門店もある。たとえば、社交ダンスの選手に需要が高いパーマを専門で行う美容院があるそうだ。

◆美容師に求められる能力

好奇心：多種多様のお客様の趣味嗜好に関心を持つ力

傾聴力：自分の経験や知識に固執せず、他者の経験から学ぶ姿勢

観察力：言葉ではなく、表情やしぐさから、お客様の気持ちを読み取る力

愛情力：人の生き様を尊重し、受け入れる力

持続力：これはと決めたことをやり続ける力